

「千葉市中央区80・50を考える会」

令和7年度中間報告会 活動報告

令和7年11月5日

加藤 聰子

# 8050問題とは

---

80代の高齢の親と、50代の働いていない子どもが  
外になかなか助けを求められないまま過ごし、  
親が介護状態になったり、亡くなったりした後に、  
子どもが生活できなくなる問題

このような状況の方を中央区から一人でも減らしたい！

→中央区80・50問題を考える会を立ち上げました

# 目的

---

2021年度～2023年度

8050問題を抱えるご家庭を早期発見し、  
地域で支える**仕組みづくり**を行う



当事者の方を対象に**社会参加へ向けた啓発活動**を行う

※社会参加 = 就労、外へ出るという狭義の意味ではない

# 事業概要

---

8050問題を抱えるご家庭に対して、  
支援を受けることで、社会参加できるということを知って頂き、  
社会参加へ一歩踏み出していくよう支援する

- 1) 社会参加へ一歩踏み出すための事例集づくり（WEB媒体含む）
- 2) 啓発活動（講演会、勉強会等）

# 事業内容

---

- 1 ) 毎月会議を行い、事例集づくりについて話し合う
- 2 ) 講演会・勉強会
- 3 ) 当事者団体を対象にした地域勉強会

# 活動実績

---

第1回 4月 18人 今年度の活動内容、映画会の検討

第2回 5月 13人 映画会、事例集の検討

第3回 6月 23人 映画会、事例集の検討

第4回 7月 18人 映画会・事例集の検討

第5回 8月 17人 映画会・事例集・勉強会の検討

第6回 9月 19人 映画会準備

10月11日 123人 映画会【どうすればよかったです】&座談会

第7回 10月 19人 映画会振り返り

主催:千葉市中央区80・50を考える会(中央区地域活性化事業)  
共催:千葉市／千葉県社会福祉士会

## 8050問題を考える

# 映画上映会 &座談会

よかつたか?  
どうすれば



(C) 2024動画工房ぞうしま

2025年10月11日(土)

12:30~17:00

会場／千葉市ハーモニープラザ

3F ハーモニーホール

(千葉市中央区千葉寺町1208-2)

### ●事前参加申込方法●



二次元バーコード①映画鑑賞から希望・②座談会、個別相談会のみ  
のどちらか、または裏面の申込書をご記入の上、FAXにてお願いし  
ます。【事前〆切】10月3日(金)



- ・映画鑑賞希望の方は①のバーコードより申込ください。
- ・座席に限りがある為、なるべく事前の予約をお願い致します。(座席は先着順にご案内します。指定はできません)
- ・予約なく当日来場いただいた方は、空きがある場合のみご案内となりますのでご了承ください。
- ・座談会、個別相談会のみの参加の方は②のバーコードより申込ください。入場料はかかりません。

# 映画上映会&座談会(10月11日)

## 1) 映画上映

『どうすればよかつたか?』

## 2) 座談会

『今、地域でなにができるか』

## 3) 個別相談会

# 映画会報告



◆ 参加人数 123人

◆ 個別相談

中央区障害者基幹相談支援センター4人



# 事例集（簡易版）

※配布資料参照



**10年以上ひきこもっていた  
知的障害のある女性が  
通所を開始したケース**

**事例) 1**

**プロフィール**  
50代の知的障害の女性Aさん。  
家族は80代の父と母。  
10年前に通っていた仕事を辞めてしまってから、家にいてどこへも行かない生活でした。  
母と父が親亡き後のことについて、悩んでいました。

**①母からの相談**  
母がケアマネジャーに相談。  
ケアマネジャーから障害者基幹相談支援センターに連絡が入りました。

**②障害者基幹相談支援センターの職員訪問**  
ご本人は会話はできなかったが、穏やかで、訪問を快く受けられました。

・知的障害はあるが、訪問のテーブルと一緒に座ってくれて、にこにこしている様子から、人との関りは好きなように感じました

**③人と関わることの練習**  
障害者基幹相談支援センター職員と一緒に散歩に行ってみることに。  
散歩の途中で、たまたま就労継続支援B型事業所の前を通ったので、「今度、ここを見学に来てみないか」と誘ってみると、OKして下さいました。

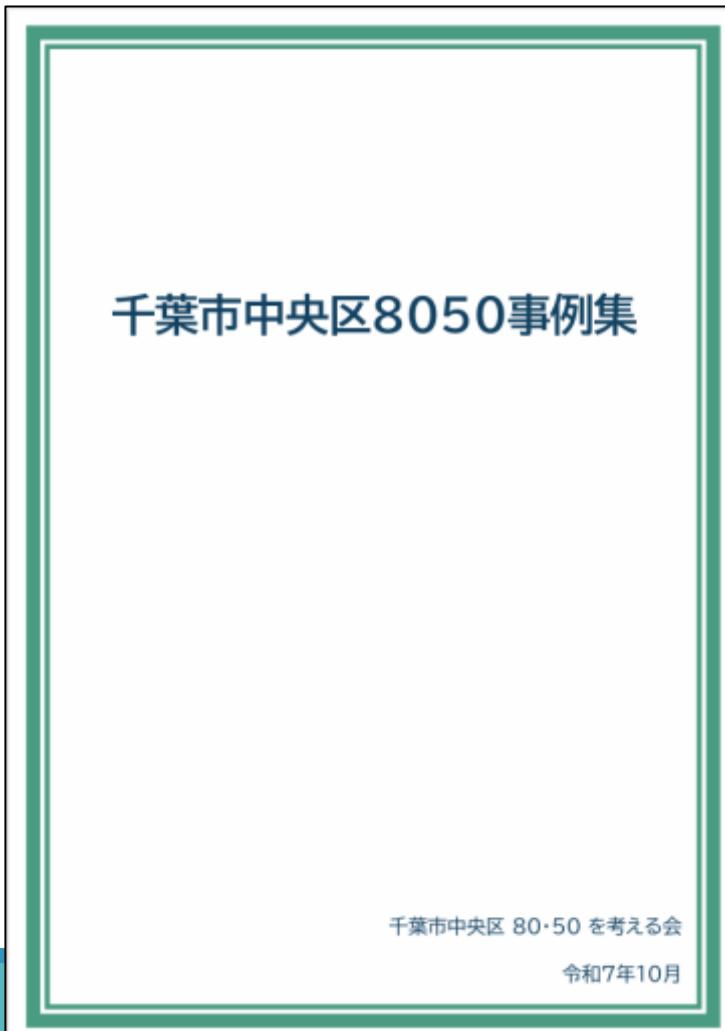
※就労継続支援B型事業所とは、一般の企業での就労が難しい障害者が、サポートを受けながら働く場所です

**④就労継続支援B型事業所の見学**  
事業所の見学をしたところ、「いいところだね」との言葉があったので、通所の手続きをしていくこととなりました。

**Aさんのその後**  
当初は通所を渋る様子もありましたが、初めはお昼ご飯を食べるだけにし、その後、30分の作業から始め、半日、1日と延ばし、今は週1回通っています。今後、通所に慣れていったら、グループホームなど考えていこうと思います。

# 事例集（詳細版）

※配布資料参照



**【事例1】10年以上ひきこもっていた知的障害の女性が、通所を開始したケース**

|        |                            |
|--------|----------------------------|
| キーワード  | 50の支援、瓦野譲吉                 |
| 対応センター | 障害者基幹相談支援センター              |
| 関係者    | 団体介護支援事業所、障害者基幹相談支援センター    |
| 相談者    | 両親のケアマネジャー(団体介護支援専門員)より    |
| 世帯構成   | 父(80代)母(80代)長女(50代)、別世帯に長男 |
| 経済状況   | 父の年金、長女の障害年金               |

団体介護支援事業所  
(ケアマネジャー) → 障害者基幹相談支援センター → 相談支援専門員・就労継続支援B型事業所  
(計画相談)

ケアマネジャーが発見 → ひきこもりの長女に会う → 福祉サービスを受けながら現在は親元で生活

発見した場の状況  
両親が今後のことを考えて、ケアマネジャーに相談したのがきっかけ。過去に職場でうまくいかなくなってしまったことで、外へ出るきっかけがないまま今日に至っていた。

【それぞのの特徴】  
・長女：障育手帳(B3)、過去に福祉サービスを使ったことがあるが、やめて以来、ひきこもっている。  
・両親：どちらも介護が必要な状況ではないが、デイサービスに通所中。長女がいるために、必ずどちらかは車により、長時間の利用はできていない。  
・長男：結婚し別住所を構えている。

■ ケアマネジャーが担当している80から把握を取る

【発見】  
ケアマネジャーが、両親から長女の親亡き後のことを心配していると相談を受けた。長女には幼少期から保険をかけており、自分たちが亡き後のお金の心配はない。しかし、長女の世話をどうしたらいいかを心配している。長女は高校卒業後、美容の専門学校へ行ったが、卒業後は飲食店で就労。体調不良により退職し、就労継続支援B型事業所(計画相談)に行つたが、そこで嫌な想いをしてから、人と会わなくなり、外へも出なくなってしまい、20年が経過した。

■ 障害者基幹相談支援センターの支援へ

【つなぎ】ケアマネジャー → 障害者基幹相談支援センター

ケアマネジャーから障害者基幹相談支援センターへケースの相談をし、後日、一緒に自宅訪問をした。

# 当事者の方の声

---

- ・丁寧に考えててくれて涙が出た。
- ・事例を読んで連携してくれるんだ。紹介してもらうのも、たらいまわしじゃなくて意図があるんだと思って、心強く感じた。
- ・先生のコラムがよかったです。
- ・支援が点だったのが線でわかりやすかった。
- ・こんな感じだった子供に見せてもいいかも、と思った。

# 付帯条件に対する取り組みについて

---

1. 前回事業との違いを明確化するとともに、今回の事業目的に主眼をおいた事業内容とすること
2. 当事者目線に立った視点で、事業に取り組むこと

- ・映画会へ 親の会17名、当事者の方3名が参加
- ・親の会へ事例集を発送
- ・親の会の勉強会への参加依頼

# 後半の活動予定

---

- 1) 啓発活動（講演会、勉強会等）
- 2) 会内での勉強会（2月）

「本人を支える 家族も支える～精神障害者家族まるごと支援の重要性～」

当事者（親の会）の方との企画について検討中

ご清聴ありがとうございました